

里山グループ

平田 範光



エコファームグループ

井戸 八穂子

シイタケ枡木を仮伏せ場から移動し、本伏せするため孟宗竹を切り5月末に準備をしていました。

今年は6月7日(木)に協働作業でシイタケの枡木の本伏せを無事に済ますことができました。皆さまのご協力のおかげで思っていた以上に早く作業を完了することができました。

今年の枡木は結構太くて一人で移動できないくらいのものが、多多ありました。しかし、この太さがシイタケの出る時には威力を発揮することでしょう。普通は5~6年で枡木は腐りますが、太い枡木は1~2年は長持ちし収穫数も多いと思います。作業参加の皆さまありがとうございました。

しかし、皆さまもご覧になったように枡木置き場も里山林整備が進んで木漏れ日が当たるようになってきています。

今年は枡木を乾燥させないために、遮光ネットを張って陽光を遮ってみようと思います。結果は、1年半から2年後が楽しみです。また、松林の整備が終わり、マツタケの植菌も完了したので今年はシイタケ以外のキノコ類の栽培を検討してみよう



「バカマツタケ」

と思っています。例えば、ヒラタケ・シメジ・バカマツタケなどいろいろと種類はありますが皆さまのご意見をお聞かせください。

現在シイタケの枡木は、コナラなどの落葉樹を使用しているが、キノコの種類によっては常緑樹でも構わないようです。またヒラタケなどは、切り株に植菌してもいいようです。ただし採集するときに該当の切り株を見つけるのが大変ですが。

エコファームの畑では夏野菜の収穫が始まっています。ナス、トマト、シシトウ、キュウリやカボチャなどなど。夏野菜ができるまでいろいろな作業があります。冬の間堆肥をたっぷり鋤き込んで土壌を準備します。次に、竹や板で骨組みを作り、ビニールをかけて温室の準備をします。まだ寒さの残る春先に育苗用バットに種をまき、温室の中で発芽をさせます。発芽するまでエコファームの男性方が当番制で毎日水やりをします。ようやく発芽した小さな苗を一つ一つポットに植え替え、畑に植えられる大きさになるまで、また温室のなかで大事に育てます。水やりの当番が続きます。

5月になると畝に雑草除けの黒いマルチを敷き、温室で育った苗を次々と畑に植えつけます。寒さが苦手なカボチャやスイカを植えるときには、行灯型にしたビニールで囲ってやり、マルチの上にもわらをのせて保温をします。

夏野菜たちは春から初夏の日差しを浴びてぐんぐんと成長していきます。育ってきたら、トマト、ナス、シシトウなどには倒れないように支柱を立てて、茎を支えます。ゴーヤやキュウリなど、つる性の野菜には支柱のほか、ネットを張ります。

今年は東池の囲いに沿ってゴーヤのネットが張られています。その後はマルチの横からも生えてくる雑草を抜き、定期的に有機肥料を施します。ナスやトマトなどは栄養が分散されずに大きな実がなるように、また風通しをよくして病気を防ぐために、芽かきの作業をします。

さて、手間暇かけて育ててきた今年の夏野菜の出来はいかがでしょう。色の濃い野菜にはポリフェノールがたくさん含まれているそうです。最近、老化予防の抗酸化作用があるというポリフェノールが注目されていますから、たくさん召し上って



ね。

景観グループ

太田 和則

◆「里山の竹林とタケノコ」

6月号で有元さん執筆の「竹林の整備」に続き2か月連続で竹に関する掲載です。

最近ならやまで竹林と向き合うことが多くなった。身近に孟宗竹が多く、ならやま周辺では不退寺から北側テニスコート～佐保自然の森～JR線路沿い～実りの森～ベースキャンプ周辺と至る所に竹林が存在しています。ならやまの竹林は孟宗竹と真竹の二種類で“淡竹”も混ざっていると思っていたが、探した範囲では確認できなかった。その中で孟宗竹と思っていた「彩りの森竹林」はほとんど「真竹」であり、ベースキャンプ横の竹林と合わせ2箇所であることが判明しました。

(うかつ～)

そこで簡単な竹の見分け方について調べた。



孟宗竹(節1) 真竹(節2) 淡竹(節2)
真竹と淡竹の違い(言葉では分かりにくい)



左真竹(斑点あり) 右淡竹(斑点なし)



真竹(切り口○) 淡竹(ハート型、星型)

孟宗竹はもちろんのこと、節間の長いきれいな真竹は工作などに適し利用価値が高い。



鳥シリーズ

小田 久美子

◆ネット上で大ブレイクのカラス

4/29撮影したJR錦糸町駅でのカラスの映像が動画で投稿され、テレビ各局もこぞって放映しました。ご覧になりましたか。路線図を見上げて券売機の液晶画面を触ると、「ご希望のボタンを押してください!!」と券売機の丁寧なアナウンスに「チャージが終わりました」の声がした隣の券売機から出てきたICカードを取り再びトライ。でも何処に入れていいのか分からず、元の持ち主に返しました。ネットでは「何て賢い」「可愛い～」と一躍有名鳥になりました。カラスは、元々とても賢くて小学低学年位の知恵を持っているといわれます。これは「ハシボソガラス」で、多分人に飼われていたのだと思われます。私も話題に事欠かないカラスを「鳥シリーズ」で何度も取り上げましたが、この映像にはビックリしました。周辺には公園や水路があり、^{ねぐら} 罅や水には困らないし、餌をくれるありがたい人間様がいます。余ったお菓子は建物の隙間に貯蔵できとても良い所です。



でも彼(彼女?)は近くにいるハシボソガラスの仲間には入れません。餌を人に依存して体に悪い物しか食べていません。かわいそうだからと捕まえて、一か月程したら長野(何故長野?)に離してやると女性が答えていましたが・・・これはもしかして旅鳥で、GW何処かへ行きたかったのかなんて。

^{たびがらす} せっけんを盗んだり(食べる)、線路に置石し(餌を隠す時、石をどけ後始末はしない)、時には滑り台で遊ぶ余裕もあり、ろうそくを盗む(食べる)ものもいます。伏見稲荷大社ではボヤ騒ぎがあり、カラスの嫌いな臭い付きろうそくを売ったりしましたが、自分でろうそくを持参する方もいて苦慮しているとの話も聞きます。先日、奈良国立博物館への帰り、鹿の尻毛をカラスが引っ張っていました。巣材に使うのでしょうか。鹿も気持ちいい顔をしていました。